

新 サラリ一族が かかしやすい病気の 症状予防・治療法

〈連載146〉

腎臓にできる腫瘍のうち80%は腎臓の尿細管上皮にできる腎細胞がんである。がんの中では罹患率は低いほうだが、年々増加してここ15年間で5倍近くになった。40代以降の男性に多く、サインは血尿だ。

腎細胞がん

症状

片方の腰にしこりや疼痛

早期発見につながる初期症状は特になが、がんの進行に伴って血尿が出てくるケースが多い。

「血尿は患者の約3分の2

に見られます。顕微鏡で見ないとわからない潜血からコーヒー色をした血尿までいろいろありますが、多くは鮮血の血尿で、だれにでもわかります。便器が真っ

3分の2に血尿。鮮血で便器が真っ赤になる

赤になります」(社会保険 埼玉中央病院泌尿器科・石井泰憲部長)

血尿は最重要の自覚症状であるが、排尿のたびに出現するのではなく、一度出た後何カ月も出ないことも珍しくない。一度でも少量で



腹部の超音波検査で早期発見できる

の全摘出手術だ。「上腹部を切開して腎臓を周囲の脂肪組織と一緒に取り出します。肺や骨、周辺リンパ節などへの転移がなければ全摘出により根治します」(石井部長)

腎臓はひとつを全摘出し、もうひとつに予備能力があるため機能障害は起こらず通常の生活ができる。近年は早期発見できた小腫瘍に対して、腎部分切除術や、病変部のみを切除する腫瘍核出術を行う場合もある。

「がんができたほうの腎臓の腰のあたりに、しこりや疼痛を感じることもありません」(石井部長)

血尿にしこりや疼痛が伴う場合は、すでに進行がんのことが多い。病変部のみ切除する手術もある。

腎臓がんには放射線や抗がん剤は効かないが、インターフェロンなどの免疫治療薬が有効なケースがある(石井部長)

予防法

高脂肪食やストレスが誘因に

腎臓がんのリスク因子は明らかになっていないが、欧米人に多いことから高脂肪食が誘因になるのではないかとされる。ほかのがんと同様、喫煙やストレスも良くない。食事は和食中心にし、節煙を心がけてストレスをためないことも予防につながる。その上で年1回は腹部の超音波検査を。偶然、早期で見つかることがしばしばあります」(石井部長)